

トホクのシュンギク栽培方法

発芽適温：15～25℃ 生育適温：15～25℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

1. 作物特性

シュンギクは冷涼な気候を好む野菜で、秋まきの9月中旬～10月上旬のタネまきが最適で、春まきでは4月上旬～5月上旬のタネまきが適します。生育期間が短く、通常40～50日程度で収穫できます。長日に反応してとう立ちし、トウが立つと茎葉が固くなるのでその前に収穫を済ませるようにします。特に注意すべき病虫害も少なく、プランターでも栽培できます。

2. 畑の準備・タネまき

シュンギクは酸性土壌ではうまく生育しませんからタネまきの2週間位前に苦土石灰を多めにまいて耕してよく馴染ませてください。



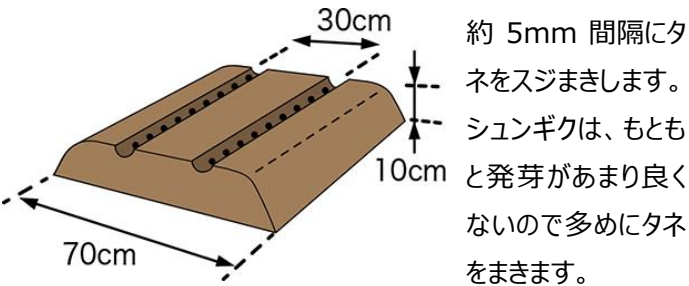
株張りタイプの「大葉しゅんぎく」や「サラダ用しゅんぎく」は生育期間も短いので追肥の必要はありません。最後の間引きの時に条間を軽く耕し株元に土寄せします。



摘み取りタイプの「中葉しゅんぎく」は、株の状態を見て追肥します。追肥する場合は、最初の摘み取りが始まった頃に化成肥料を1株当たり30g、株元に施して軽く中耕します。

4. 収穫

「大葉しゅんぎく」など株張りタイプは草丈20cm～25cmになった頃、株元から切るか株ごと引き抜いて収穫します。



タネまき後、薄く土をかけて軽く鎮圧し、土を固めない程度にいていかに水をやります。芽が出るまではタネが流れないようにジョウロを使っていていかに水をやりましょう。



摘み取りタイプの「中葉しゅんぎく」は茎葉が20cm～25cmに伸びたものを順次収穫します。摘み取りタイプはその後も順次わき枝が伸びてくるのでそれも収穫できます。

シュンギクは病害の発生の少ない野菜です。それでも気温や湿度が高いとべと病などが発生します。農薬など適切に用いて予防しましょう。また害虫の発生には、防虫ネットを用いて被覆すると効果があります。

3. 栽培管理

発芽してきたら生育に応じて間引きをし、本葉3枚頃までに1本立ちにします。なお間引きに際、残す株の根を傷めないようにします。



根元をハサミ等で切るのもよいでしょう。すじまきの場合は最終株間が10cmとなるように間引きます。

地域/月	まく時期			収穫期									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
冷涼地				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●